

オケクラフトセンター
森林工芸館の

あれこれ

no.07
10
2020

「秋岡コレクションって何ですか？」

名前は知っていても

詳しくは知らない

どこで見られるの？

何のためのもの？

どうして置戸にあるの？

目に触れる機会が少ないからこそ

これまでは知らなかった

みなさんに伝えたい

秋岡コレクションの「あれこれ」

今回は秋岡コレクションについて少しだけ
紙面では足りないけれどお伝えしていきます



秋岡強化月間 後編

秋岡コレクションって何？



pick up

きほんのおはなし

- 1994年 どま工房開設
- 1997年 置戸町へ秋岡コレクションの一括寄贈
- 1999年 どま工房での常設展示開始
- 2007年 秋岡コレクション資料集第1集「鉋 その一」発刊
- 2018年 秋岡コレクション資料集第28集「秋岡作品 竹とんぼ」終刊

【秋岡コレクションとは】▶オケクラフトの生みの親である故 秋岡芳夫さんが、半生をかけて収集した日本の生活道具や宮大工の道具など約 6,500 点と、関連図書や映像資料などを合わせた 18,000 点からなる資料。



寄贈前の秋岡資料（墨付道具一部）

【どうして資料を集めたの？】

秋岡さんは、工業化社会の中で失われていく手の技、特に優れた日本の木工技術を未来へ継承する為にこれらの道具を収集し、また「手仕事の復権」をライフワークとして取り組みました。

五感の全てを通して道具とつき合う「モノの図書館構想」の具体例としてデザインされたどま工房では、秋岡さんを講師に「どま塾」が開催され、秋岡コレクションのこと、手道具の扱い方、手入れの仕方などを町民に伝えてくれました。



【なぜ、置戸町？】

1983年、置戸町民憲章推進大会に講師として初来町した秋岡さんとの交流は、置戸のまちづくりに大きな影響を与えました。そのひとつが生活工芸資料（後の秋岡コレクション）の寄贈です。

秋岡さんは「社会教育に力を入れているのが気に入った」「親にきた人に触れて、使って、貸し出すモノの図書館として機能することができれば」と、その半生をかけて収集した資料を、置戸のまちづくりのために寄贈しました。

1992年北海道新聞夕刊紙面



【どこにあるの？】

6,500点もの資料はどこにあるの？…答えは「どま工房」です。ただ、どま工房では収納しきれないので、その他にも倉庫があります。

手仕事道具集は終刊を迎え、データ整理は一区切りつきましたが、まだこの先も資料整理は続けられます。



資料倉庫の様子

【どこで見られるの？】

現在、残念ながら常設展はできていませんが、年に一度、どま工房で企画展を開催しています。その他、図書館や工芸館でもミニ展示をしているので、ぜひご覧ください。昨年からは小中学生向けに秋岡コレクションの出張授業を実施し、資料に触れる・使う・知る機会を作っています。



秋岡コレクション企画展の様子

【どんな資料があるの？】

資料の分類は

- A) 製作のための道具
- B) 食のための道具
- C) 暮らしのための道具
- D) 生業のための道具

この4種類が基本となり、その他に秋岡さんの作品（竹とんぼやニマ）などと、分かれています。





塾生さん、いま何してる？

『数をこなす経験』



メジロカバの特徴については「あれこれno.4」をcheck!



数は、大小合わせて一〇〇個。一度に同じ物をたくさん作ることがなかった前田さんにとって、貴重な経験です。

前田「今回は丈夫さを意識して製作しています。木材はメジロカバを使っているのですが、硬くて削りづらいですが、材料自体に強い丈夫さがあります。同じものをひたすら作る作業は、時間を忘れて没頭できます。」

▼二年生の前田さんは、八月から一度にたくさん作品を作る練習をしています。「あれこれno.4」で紹介した通り、作り手は効率よく生産するために、一ヶ月の中でスケジュールを組んで作業をしています。ペテランの作り手になると、多い月で三百個もの商品を作ることになります。現在、仕上げ削りをしており、その後塗装をして完成です。



「消費者ではなく愛用者になろう」

森のリレー 8月号では、「木々の生長する時間」として、長い時間をかけて魅力ある樹木へと生長していく、その過程を教えてくださいました。オケクラフトは、その長い年月をかけた樹木の命をいただいて製作されています。樹木としての生長は止まってしまうますが、今度は皆さんの生活の中で、形を変えゆっくりと成長の時を刻みます。オケクラフトの生みの親である故 秋岡芳夫さんは、高度経済成長期の大量生産・大量消費が進む日本社会において、「消費者ではなく、愛用者になろう」と、提唱し続けました。

オケクラフトは、壊れても修理をして使い続けられます。愛着を持って使うことで、艶が全体にあらわれます。皆さんの生活に寄り添いながら、第二の成長の時を刻むオケクラフト。ぜひ皆さんも愛用者となって、オケクラフトの成長を楽しんでください。

【経年変化】



【修理可能】



今月の一品

かくれた一品 おすすめの一品
毎日 オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！



商品名：木の葉箸置き
サイズ：幅 25mm
長さ 80mm
高さ 15mm
価格：600円（税抜き）
樹種：エゾマツ、ナラ他

今回ご紹介するのは木の葉の箸置き。(工房清田作) 発売以来三十年以上の超ロングセラー商品です。木の葉をモチーフにしたものは食器類に多く見られますが、板を互い違いに貼り合わせて葉脈を表した手法は木材ならではの葉脈を意識して選んだ木材は十種類にもなります。箸の納まりが良く箸上げもスムーズ。贈り物に、自分用にいかがでしょうか。



ショップ販売員 青木

秋岡コレクション関連企画

「縄文式木工 - ニマの器をつくらう」

日程：①10月25日(日)
②11月8日(日)
③11月22日(日)
13:00~16:00

場所：どま工房
定員：各回3名
講師：那珂琴絵(どま工房研究員)
参加費：1,500円(当日持参)
対象年齢：18歳以上
参加受付

10月1日(木)~10月11日(日)
◎森林工芸館(52-3170)、どま工房(53-2222)までご連絡ください。



第29集 日本の手仕事道具 - 秋岡コレクション企画展

「ドマしよう。-あそんでならってあじわって」

今年、生誕100周年を迎える秋岡芳夫さんが、置戸でどのような活動をしてきたのか。どま工房の視点から捉えた軌跡を関連する秋岡コレクションとともに展示をします。秋岡さんが半生をかけて収集した生活資料を活かす場として、モノの図書館構想の思いが見られた置戸町のどま工房。「どま」という空間に秋岡さんが込めた思いを、「ドマしよう。」という言葉につなげる資料とともに展示で表現します。

会期：令和2年10月10日(土)~11月23日(月/祝)
月火休館(祝祭日は開館)
10:00~16:00
場所：どま工房

詳細は、森林工芸館HPをcheck!

関連企画「縄文式木工 - ニマの器をつくらう」

白樺の生木から製作する樹の器。秋岡さんが縄文式木工と名付けて製作した器をみなさんも一緒に作りませんか？「木はそる あばれる 狂う 生きているから だから好き」と、木のモノづくりを楽しんだ秋岡さんと同じように、木と対話しながら作ってみましょう。